

年度/Academic Year	2024	
授業科目名/Course Title (Japanese)	プロジェクトを成功させるための見積もり技術	
教員名/Instructor (Japanese)	初田 賢司	
講義概要/Course description		
<p>業務アプリ開発プロジェクトの成否の大半は見積もりで決まると言っても過言ではない。見積もりにミスがあると、プロジェクトはたちまち混乱する。</p> <p>だが、情報システムの見積もりにおいて、これを使えばピタリと当たるとい魔法の仕掛けはなく、現場では属人的で根拠に乏しい見積もりが氾濫しているのが実情だ。</p> <p>本講義では、見積もりにエンジニアリングとマネジメントの側面から光を当て、体系だったディスカッションや演習を通じてプロジェクトを成功させるために必要な見積もりの論理性、合理性を高める技術を習得する。</p>		
達成目標/Course objectives		
<p>本講義を通して受講者が以下のような知識・スキルを習得することを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見積もりのプロセスと基本的な技法を説明することができる。</li> <li>・案件や見積もりの場面に応じて適切な見積もり技術を使うことができる。</li> <li>・作成したプロジェクトの見積もりをロジカルに説明することができる。</li> <li>・受け取った見積もりをロジカルに評価することができる。</li> </ul>		
授業計画/Lecture plan		
講義回		
1	見積もり概論	<p>なぜ見積もりは必要なんだろう？何のために見積もるんだろう？</p> <p>見積もりへのアプローチ方法を考える。</p> <p>見積もり技法や見積もりの手順などの基礎知識を解説</p>
2	見積もり技術の体系的な理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規模見積もりの技法と適用のポイント</li> <li>・工数見積もりの技法と適用のポイント</li> <li>・期間見積もりの技法と適用のポイント</li> <li>・コスト見積もりの技法と適用のポイント</li> <li>・価格見積もりの技法と適用のポイント</li> <li>・見積もりの入力情報</li> </ul>
3		
4	見積もり演習	<p>〔ケーススタディ〕 A社 業務更改プロジェクトの見積もり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見積もりの方針と手順を考えてみよう。</li> <li>・ステークホルダーからの情報収集</li> <li>・実際に見積もってみよう。</li> </ul>
5		

授業方法/Method of instruction

ADPISA-Mの「価値を実現するためのプロジェクトマネジメント」の1日目を受講済み、もしくはPMIのPMP資格、情報処理試験のプロジェクトマネジャー資格などを有することを受講の前提条件とする。キャンパスでの対面講義として実施する。

成績評価方法/Evaluation

レポートによる評価

参考書/Reference books

「本当に使える見積もり技術 [改訂第3版]』初田賢司、日経BP社(2015)。